

# 学術刊行物

ACADEMIC PUBLICATIONS

2023.5.1

部局等 Division	刊行物名 Name	年発行回数 Issues per year
福島大学 Fukushima University	福島大学研究年報 Annual Report of Fukushima University	1回
人間発達文化学類 Faculty of Human Development and Culture	福島大学人間発達文化学類論集 Bulletin of The Faculty of Human Development and Culture	2回
	福島大学教職実践研究 Annual Report of Research on Teaching Practice Fukushima University	1回
行政政策学類 Faculty of Administration and Social Sciences	行政社会論集 The Journal of Administration and Social Sciences	4回
	商学論集 Journal of Commerce, Economics and Economic History	4回
保健管理センター Healthcare Center	福島大学保健管理センター紀要 Bulletin of the Healthcare Center	1回
地域未来デザインセンター Community Future Design Center	地域未来デザインセンター年報 Annual Report of Community Future Design Center	1回
	福島大学地域創造 Fukushima University Journal of Regional Affairs	2回
学校臨床支援センター School Clinical Support Center	学校臨床支援センター紀要 Bulletin of School Clinical Support Center	2回



学  
内  
術  
施  
刊  
設  
行  
等  
物

# 学内施設等

CAMPUS FACILITIES

## 附属図書館 UNIVERSITY LIBRARY

蔵書数 BOOKS AND PERIODICALS

2023.3.31

和書 Domestic	洋書 Foreign	計 Total	雑誌 Periodicals		
			和書 Domestic	洋書 Foreign	計 Total
730,471	237,471	967,942	10,862	2,731	13,593

令和4年度利用状況 UTILIZATION

区分 Division	人数 Persons		冊数 Volumes	
	年間 per year	一日平均 per day	年間 per year	一日平均 per day
館外貸出 Loan	12,432	40.2	26,689	86.4
学類学生 Undergraduates	9,769	31.6	19,115	61.9
大学院学生 Graduate Students	1,074	3.5	2,765	8.9
教職員 Faculty and Staff	1,484	4.8	4,428	14.3
学外者 External Users	105	0.3	381	1.2
入館者数 Number of Visitors	186,853	604.7		

開館日数 309日 Open 309 days  
(内土曜日43日) Saturday 43 days  
(内日曜日35日) Sunday and holiday 35 days

※ 2020(令和2)年度以降、新型コロナウイルス感染症対策として利用制限等を行った影響により、例年より利用が減少している



フクニチャージ図書館(附属図書館)  
FUKUNICharge Library (University Library)

☆福島大学は、福島白産自動車株式会社とネーミング・パートナー契約を締結し、附属図書館の愛称を「フクニチャージ図書館」としている。



閲覧室  
Reading Room



ラーニングcommons  
Learning Commons

## 文庫

Book collections

### ●大塚久雄文庫

The Hisao Otsuka Collection

故大塚久雄先生旧蔵の図書・雑誌・資料を受贈。その数、和洋合わせて図書6,058冊、雑誌約212タイトル、抜刷約1,682点、その他、ノート、原稿、講演テープ、色紙、写真、住所録等個人資料一山。

### ●今野源八郎旧蔵書

The Genpachiro Konno Collection

故今野源八郎先生旧蔵の図書・雑誌・資料を受贈。その数、和洋合わせて図書4,455冊、雑誌294タイトル、資料13,553点、その他、パンフレット、リーフレット、地図、抜刷、コピーなど一山。

### ●その他

藤本文庫、藤田文庫、栗原文庫、二宮文庫、大森文庫、川村重和教授旧蔵書、松井秀親教授旧蔵書、三宅皓士教授旧蔵書、岡本友孝教授旧蔵書、佐藤恒久教授旧蔵書、珠玖拓治教授旧蔵書、下平尾勲名誉教授旧蔵書等。

## 大型コレクション

Large collection

●19~20世紀ロシア・ソビエト研究稀覯資料集  
19<sup>th</sup>-20<sup>th</sup> century Russian and Soviet rare materials collection

●ロシア帝国・ソビエト連邦法令集

Collection of laws and ordinances of the Russian Empire and Soviet Union

●帝政ロシア及び現代ソビエト社会・経済研究 第1部、同第2部

Imperial Russian government and contemporary Soviet society: Economic research part 1 and 2

●体育教育の歴史

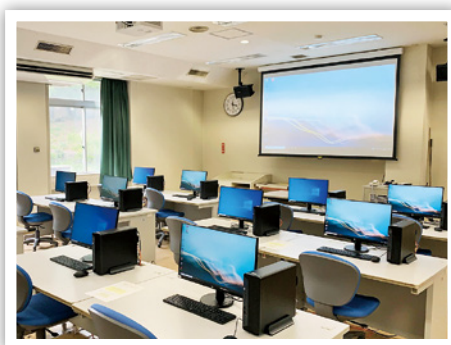
A collection of rare books in the history of physical education. EDUCATION FOR HEALTH & PUBLIC WELFARE: from the 'survival of the fittest' to 'fitting the many to survive'

## 震災関連資料コーナー

Earthquake disaster related materials corner

東日本大震災の関連資料をはじめ、震災を原発・ボランティア・郷土・教育・科学・防災・産業など多様な観点から扱った資料を配置。図書・雑誌・視聴覚資料など2023(令和5)年5月現在約9,000点。

## 情報基盤センター Information Technology Center



情報基盤センターは、1969(昭和44)年に学内共同利用施設「計算センター」としてスタートした。その後、1987(昭和62)年に学術研究・情報教育の高度化・多様化、社会における一層の情報化進展に対応するために、「情報処理センター」に改組、さらに2003(平成15)年には教育研究・地域連携のための情報発信など多様な役割を担うべく省令施設に格上げされ、「総合情報処理センター」となった。2022(令和4)年には、遠隔授業実施やBYOD導入等、ICT環境の大幅な変化に伴い、センターに求められる役割、業務が大きく変革し、従来に増して学内の情報基盤や情報セキュリティ対策の整備環境を行うことから、「情報基盤センター」に名称を変更し、さらなる機能強化を行った。

本センターは、「キャンパスネットワーク(FAINS:フェインズ)の運用・管理」、「本学の認証基盤となる全学認証システムの運用・管理」、「情報システムの利用についての技術指導」の他、全学的な情報セキュリティに関する業務を行っている。

## 環境放射能研究所 (IER) Institute of Environmental Radioactivity



環境放射能研究所は、東京電力福島第一原子力発電所の事故により放出された放射性核種の環境中の挙動を長期間にわたって調査・解析し、解明することを目的として2013(平成25)年7月に設置された。国内の大学・研究機関、さらには実績ある海外の研究者・大学・研究機関と連携して研究活動を行っている。外国人研究者も多数在籍し、世界に開かれた環境放射能研究の先端研究拠点としての役割を担っている。

研究分野は大気、森林、河川湖沼、海洋と広範囲にわたる。事故から現在までの環境中の放射性物質の挙動の解明に加え、将来の挙動を予測することも重要である。これらの研究成果は、放射線防護や効果的な除染方法の策定、住民の帰還や産業の復興など、より具体的な復興活動の基礎となる。

環境中の放射性物質の移行のうち主なものとして水の作用による侵食、運搬、堆積によるものがあるが、それ以外にも様々なものがある。ひとつは生物作用による移行、つまり生態系への影響である。この研究課題では、野生動物や魚類への放射性セシウムの移行状況調査とそのメカニズム研究をはじめ、住民の避難によって行動範囲を拡大した野生動物がもたらすさまざまな影響などのテーマにも取り組んでいる。また、農作物をはじめとする植物がどのようなメカニズムで放射能を取り込むのか、土壌粒子の構造や土壌中の化学成分などミクロまで踏み込み、植物生理との関連を解明することも重要なテーマである。これらは、農林水産業の復興に際して懸念される問題やその発生メカニズムを扱う研究であり、問題に対する対策策定や帰還の判断に資するものである。さらに測定機器の開発や、環境放射能のアーカイブセンターとしての機能も備える。

2019(令和元)年度からは共同利用・共同研究拠点「放射能環境動態・影響評価ネットワーク共同研究拠点」事業を開始し、毎年20件以上の共同研究を国内外の研究者とIER研究者が連携して行うと同時に、原発事故直後から系統的に採集された土壌アーカイブ試料の提供を開始し、環境放射能学研究試料へのアクセス拠点としての機能を一層強化した。また、2020(令和2)年度からは大学等の「復興知」を活用した人材育成基盤構築事業「災害・被災者の医療科学分野の人材育成による知の交流拠点構築事業」に長崎大学の共同申請校として参画し、浜通り地域の復興に貢献する人材の育成を目的として現地にてセミナーを開催している。教育機能としては、2019(令和元)年度に共生システム理工学研究科環境放射能学専攻(修士課程)を、2021(令和3)年度に博士後期課程を開設した。

今後もこれまでの国際的な取り組みを背景に、国際社会への発信力の強化、次世代の環境放射能分野の課題を担う人材の育成を行っていく。

## 人間発達文化学類附属学校臨床支援センター School Clinical Support Center



2023年度4月より学校連携部門が廃止され、教育相談部門と現職研修部門の2部門の人間発達文化学類附属センターとしてスタートした。

教育相談部門は、教育臨床研修講座などを中心に、心理職・教員等の支援技術向上を支援するとともに、臨床心理・教育相談室を併設して子ども・大人の心の悩みについての相談を有料で行っている。また大学院、地域デザイン科学研究科人間文化専攻人間発達心理コース臨床心理領域の大学院生の教育にも協力している。現職研修部門は年2~3回、もしくは通年で開催している教職員研修講座の実施を中心に、福島県教育庁、市町村教育委員会、各学校の研修支援、先生方の授業づくり支援等を行なっている。また、教職実践研究科の院生の教育にも携わっている。2部門ともに、附属学校園を含む学校の教育・研究支援を行っている。また、特別教室と授業分析室の施設があり、広く活用されている。



学  
内  
施  
設  
等



## 食農学類附属発酵醸造研究所 Institute of Fermentation Sciences



発酵醸造研究所は、2021(令和3)年4月に食農学類附属研究所として設置された。研究所にはフードチェーンに沿って「①素材生産・環境部門、②発酵醸造食品部門、③食健康・社会実装部門」、また部門横断的な位置付けで大容量の情報・データを扱う「④データ科学部門」が配置されている。発酵醸造の総合的・学際的な研究プロジェクトを推進するため、4研究部門を統括する「研究統括部門」を配置し、研究所の管理・運営を行っている。

発酵醸造素材作物の生産から発酵微生物、発酵醸造食品とその機能までを包含する総合的な基盤研究を展開している。

また、地域の農林水産業、食品関連産業に関連する課題解決型研究(ローカル)プロジェクトを産官学連携による橋渡し研究として推進する。さらにこれらの成果を国際的な課題、地球規模の課題の解決にも繋げる学際的の先端(グローバル)研究として発展させることを目指している。

## 地域未来デザインセンター Community Future Design Center

福島大学では、「地域創造支援センター」と「うつくしまふくしま未来支援センター」を発展的に統合し、2022(令和4)年4月に新たに「地域未来デザインセンター(以下デザインセンター)」を設置した。

「地域創造支援センター」では、企業・自治体・地域社会・市民と大学との協力や連携の窓口として、共同研究、受託研究、奨学寄附金受入、産学協同の研究会開催などの活動を行った。また、「うつくしまふくしま未来支援センター」では、東日本大震災以降、様々な震災復興支援活動に取り組んだ。

新しく設置された地域未来デザインセンターは、それらのセンター事業を継承するとともに、地域課題解決に向けた研究及び社会貢献を一層進めるために、地域・企業・自治体などと連携し様々なプロジェクトを起こしながらそれらを社会に提案し、今まで以上に地域創生に寄与することを目的としている。さらに、学生含め学内外の人々が語り合い・アイデアを出し合う場と機会を創出するイノベーションコモンズを整えながら、福島の未来をつくるイノベーション人材を育てることも目的としている。

デザインセンターでは、主に次のような業務を行う。

- ・地域デザインの研究、提言及び社会実装に関すること。
- ・地方自治体、企業、各種団体等との連携協力に関すること。
- ・地域の課題解決に資するプロジェクトの実施に関すること。
- ・学類及び大学院の教育プログラムの実施の支援に関すること。
- ・地域の課題解決への貢献に関すること。



## 教育推進機構 Organization for the Promotion of Education

教育推進機構は、福島大学の教育理念と目標に基づき、本学の学士課程教育及び大学院課程教育の改善・充実を図るとともに学生の確保、国際交流、学生支援及び就職支援に関する調査・研究、企画立案及び実施を全学的に行うことを目的として、2019(平成31)年4月に設置した。本機構には、保健管理センター、国際交流センター、アドミッションセンター、教職課程センター、キャリアセンターを置いている。

## 保健管理センター Healthcare Center



1981(昭和56)年4月に設置され、1982(昭和57)年3月に専用の建物が竣工。同年4月より本格的に業務が開始された。本センターには、医師・保健師・看護師が配置されており、学生および教職員の健康の保持増進を図るために、保健管理に関する専門業務を行っている。具体的には、保健管理計画に企画及び立案、定期及び臨時の健康診断の実施と事後対応、精神的及び身体的健康相談、外傷・急病の応急処置、カウンセリングなどである。

また、月に一度、外部より、婦人科(女性医師)の医師が来所し、それぞれが専門の相談に応じている。

## 国際交流センター International Center



国際交流センターは、①海外の大学等との学術交流及び学生交流の企画・推進、②留学生教育の企画・立案、③教育研究面での国際交流を図ることを目的として、2012年(平成24年)4月に設立された。

本センターでは、学生の派遣及び受入、短期留学プログラムの企画・立案及び留学生の修学上・生活上のサポートを行っている。留学生用宿舎である国際交流会館の管理運営も担当している。

センター内では、本学と学術・学生交流協定を締結している大学の情報や、留学の報告書なども閲覧することができる。

さらに、留学や語学学習に関する図書の貸出や、希望者には語学試験対策学習指導も提供している。留学に関わる生活や学習の相談、在留資格、地域のイベント案内、手続きなどもここで確認することができる。

## アドミッションセンター Admission Center



アドミッションセンターは、アドミッションポリシーに応じた入学者選抜を実現するための具体的方策を企画・立案し、円滑な入学者選抜の実施を図ることを目的に、2016(平成28年)4月に設置された。

本センターは、高大接続改革の環境変化の下、本学が実施すべき選抜制度の実現に向けて、入学者選抜に係る調査研究、入学者選抜結果の分析及びその評価を行うとともに、入学者の学業成績等の追跡調査を行い、全学で連携協力して入学者選抜に係る企画・立案するほか、入学希望者及びその関係者を対象とした入試広報を行うことにより、継続的に優秀な学生を確保するための活動をしている。

## 教職課程センター Center for Curriculum of Teacher Education

全学的観点から教職課程の運営および連絡調整にあたる組織として2022(令和4)年4月に教職課程センターが設置され、教職課程を有する5つの学類の連携や各種調整業務を行っている。

センターの主たる業務は①本学の教職課程の各段階において到達すべき基準「福島大学教職スタンダード」に基づく教職課程のカリキュラム・マップの策定、②教職履修学生の学習成果の記録と活用のための「教職履修カルテ」等のシステムの整備、③教職FD研修会の開催、④教職課程の自己点検・評価と結果公表などがある。

## キャリアセンター Career Center

キャリアセンターは、大学における学生の多様なキャリア形成を図り、就職活動等を支援することを目的として、2022(令和4)年4月に設置された。キャリア教育部門、キャリア支援部門、渉外部門の3つの部門を設け、学類・大学院の教員と連携し、就職先等の開拓、情報共有を行い、学生が自らライフプランを考え、納得して進路決定ができるよう、学生の成長をサポートすることを目指している。学生向けには、キャリア相談員による書類添削、模擬面接を含めた個別相談を行っており、その他にも、OB・OG紹介、就職に関する書籍の貸出、ガイダンス・セミナー・合同企業説明会を企画・実施している。

また、企業等からの求人・アルバイト受付の他、採用担当者との面談も行っており、採用担当者とともに本学学生を対象とした学内個別説明会を開催している。



## 研究推進機構 Organization for the Promotion of Research

研究推進機構は、福島大学における教員の個人的及び集団的研究活動並びに地域社会との円滑な連携協力活動を支援するとともに、本学の知的財産の保護、育成、管理及び活用を効率的に推進することにより、本学の研究活動の活性化並びに社会貢献を積極的に果たしていくことを目的として、2005(平成17)年5月に設置された。研究活動推進、地域連携及び知的財産に係る学内組織と相互に連携し、その総合調整を図る。



## 学生寮 Dormitories



2023.5.1

寮名 Name	如月寮 Kisaragi Dormitory	信夫寮 Shinobu Dormitory	葵寮 Aoi Dormitory
構造・面積 Structure・Area	R 5 F 3,466㎡	R 4 F 2,701㎡	R 4 F 2,654㎡
収容対象 Occupants	男子学生 Male	男子学生 Male	女子学生 Female
室数 Bedrooms	200	150	150
収容可能人員 Capacity	200	150	150
現員 Present Occupancy	164	124	146

## 大学会館 University Hall



大学会館  
University Refectory



大食堂 (Dining ReaF)  
Large Cafeteria



大食堂 (Dining ReaF)  
Large Cafeteria



Quick Lunchグリーン  
Quick Lunch Green

2023.5.1

	施設名 Facilitie	面積 (m) Area	席・畳数 Capacity
1階 (1F)	大食堂 (Dining ReaF) Large Cafeteria	1,046	600席
	売店 Shop	294	
2階 (2F)	Quick Lunchグリーン Quick Lunch Green	200	125席
	ロビー Lobby	98	
	大集会室 Large Assembly Hall	270	250席
	小集会室 Small Assembly Hall	35	32席
	//	46	32席
	和室 Japanese Room	32	12畳
	学生総合相談室 Student Counseling Office	35	
	アクセシビリティ支援室 Accessibility support room	35	
	カウンセリングルーム Counseling room	18	
	//	18	
	学生総合相談室分室 Student General Consultation Room Branch Office	22	
	厨房・その他 Kitchen and Others	1,035	

## サテライト等

SATELLITE ETC.

### 街なかランチ舟場 Machinaka Branch FUNABA



街なかランチ舟場は、2009(平成21)年10月1日、福島市舟場町の職員会館を改修し、教職員の福利厚生施設及び地域との連携を推進する拠点施設として設置され、以下の事業に使用されている。

- 地域社会、地域住民の福祉・文化の向上を支援
  - 地域の皆様を対象とした公開講座やセミナーなどを開講
  - 地域の皆様からの臨床心理・教育相談に対応
- 産官学連携事業
  - 技術相談、共同研究、受託研究等
  - セミナー、会議の開催
- 本学教員の教育研究活動
  - 講演会、研究会の開催
  - ゼミ、フィールド調査時の拠点等



### 国際交流会館 International House

2023.5.1

名 Room	称	1室当り面積(m) Area	部屋数 Number of Rooms
単 Studio	身 室	12	38
夫 One-Bedroom	婦 室	35	5
家 Two-Bedroom	族 室	52	2
多 Multipurpose Hall	目 ル	112	1
和 Japanese Room	室	24	1
ラ Laundry Room	ン ド リ ー ・ ル ー ム	14	2
談 Lounge	話 室	14	2
事 Office	務 室	19	1

※ 単身室は主に留学生用、夫婦室・家族室は研究者用



国際交流会館  
International House



多目的ホール  
Multipurpose Hall

### 福島大学東京連絡事務所(東京都渋谷区)

Fukushima University Tokyo Liaison Office (Shibuya Ward, Tokyo)

本学学生が首都圏での就職活動やゼミ活動の連絡場所として、また、入試広報等の活動拠点とする目的のため、福島大学信陵同窓会東京信陵会「信陵会館」内に2006(平成18)年4月1日に開設。

### 地域未来デザインセンター相双地域支援サテライト (富岡サテライト、浪江サテライト)

Soso Area Support Satellite (Tomioka Satellite, Namie Satellite)

地域未来デザインセンターは、東日本大震災及び原発事故に伴い避難を余儀なくされた福島の被災者と被災地域の復旧・復興の支援に取り組んでおり、相双地域支援サテライトは、現地と大学を繋ぐ拠点として被災地域に密着した活動を行っている。

